

平成21年7月16日

学生・教職員 各位

### 新型インフルエンザに対する対応について（第6）

新型インフルエンザについてWHOは「中等度の重症度（=moderate severity）」とし、25歳以下に患者が集中していることや、30～50歳台を中心とした約2%に急速に重症化する肺炎合併があることが、季節性インフルエンザと大きく異なる特徴と報告しています。

日本の患者は大多数が軽症例であり、これまでに死亡例はありません。しかし、今秋からのインフルエンザ流行期には、学生、教職員の皆さんの年齢層での流行拡大が予想されています。そこで以下のように夏季休業中の備えについてお知らせします。

#### 1. 健康管理および自己健康観察の継続

夏季休暇中も規則正しい生活に留意し、手指衛生などの基本的な感染防止策および健康観察を継続して下さい。体調不良時には適切な医療を受け、新学期に備えて下さい。

#### 2. 秋以降に向けてのマスク等の個人備蓄の推奨

2週間分のマスクを含む生活用品備蓄推奨はすでにお知らせしたとおりです。それに加えて、**今秋から来春までのインフルエンザ流行期における毎日の通学・通勤、休日外出用マスクの必要数（最低でも10～3月の外出日数分）を各自で計算し、店頭に並び始めているこの時期に計画的に備蓄**してください。流行拡大によっては、授業受講中や勤務中もマスク着用が必要になる場合が十分想定されますので準備して下さい。

インフルエンザウイルスは、新型、季節性、発生が危惧されている高病原性鳥インフルエンザのいずれであっても、消毒用アルコールが有効です。手に目に見える汚れがない場合に手指に擦り込んで使用する擦式アルコール製剤は薬局でも市販されています。外出時に持ち歩ける携帯用もあります。マスクとあわせて備蓄を推奨します。

#### 3. 最新の情報収集の継続

新学期以降も流行拡大状況によっては、休講、学内立ち入り禁止などの措置もありえますので、既にお知らせしたように大学校のホームページ及び校内ポータルサイトを毎日確認して対応して下さい。

新型インフルエンザに係る情報については、併せて、厚労省、国立感染症研究所、WHO、CDCのホームページを確認しながら適切な行動をとるようにして下さい。

※厚生労働省「新型インフルエンザに関する情報」

<http://www.mhlw.go.jp/kinkyu/kenkou/influenza/index.html>

※国立感染症研究所 感染症情報センター「新型インフルエンザ」

[http://idsc.nih.gov/disease/swine\\_influenza/index.html](http://idsc.nih.gov/disease/swine_influenza/index.html)

※WHO <http://www.who.int/en/>

※CDC <http://www.cdc.gov/h1n1flu/>